



2019年度のテーマは

2種類のPBL・その先の学びへ

人文社会科学部の専門科目「プロジェクト演習」は、受講生が地域の中でプロジェクトに取り組むことを通じて社会人基礎力を身につけることを目的に開講されているPBL(Project Based Learning)科目です。2019年度の報告会では、学生の活動報告に加えて「専門性追求型」と「多様性追求型」の2種類のPBLについて整理し、「プロジェクト演習のその先」の学びを考えたいと思います。



<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学人文社会科学部地域志向教育プログラム



地域志向教育プログラム
WEBSITE

日時 2019年12月21日(土)

時間 13:00~16:20(12:10受付開始)

※12:15~12:45に、人文社会科学部講義棟廊下にてプロジェクト演習受講全8チームによる活動報告を、ポスターセッション形式で実施します

会場 茨城大学 人文社会科学部講義棟10番教室

活動報告会に関するお問い合わせは

☎ 029-228-8115 または ✉ atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp 鈴木敦まで

2019

12/21 土

13:00~16:20

(12:10 受付開始)

12:15-12:45

ポスターセッション

プロジェクト演習受講全8チームの活動報告

13:00-13:05

開会挨拶 田中 裕(人文社会科学部副学部長・評議員)

13:05-13:15

趣旨説明 神田 大吾(プロジェクト演習担当教員)

13:15-14:05

プロジェクト演習活動報告第一部

(1)茨城大学DomaineMITOプロジェクトチーム
(2)MitoBloomチーム (3)KoriNaチーム
(4)さとみあいチーム

14:05-14:15

休憩

14:15-15:05

プロジェクト演習活動報告第二部

(5)E-girls Rチーム (6)公共交通KoMiKoチーム
(7)こみフェスチーム (8)IBADAI×ICTラボチーム

15:05-15:20

プレゼン講評 渡辺 しのぶ(ラシャンス 代表)

15:20-16:05

2種類のPBL・その先の学びへ

佐川 泰弘
(副学長・地域PBL演習カテゴリ1「自治体政策立案ゼミ」担当教員)
田中 裕
(新カリ設計者・人文社会科学部副学部長・評議員)
鈴木 敦
(地域PBL演習カテゴリ3「プロジェクト演習」担当教員)
*ファシリテーター 岩佐淳一(「プロジェクト演習」担当教員)

16:05-16:20

総括と閉会挨拶 内田 聡(人文社会科学部学部長)

2019年度プロジェクト演習 活動報告会

趣旨説明

～2種類のPBL・その先の学びへ～

プロジェクト演習担当教員 神田大吾
daigo.kanda.8139@vc.ibaraki.ac.jp

1

お話の流れ

I : 2種類のProject BL・・・

II : プロジェクト演習の特徴

III : ...その先の学びへ

2

I : 2種類のProject BL

- 多様性を追求するProject Based Learning
多種多様なメンバー(専門分野は人それぞれ)と共に、地域の課題に取り組むことを通じて実社会を疑似体験し、社会人基礎力(考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力)を身につける。
- 専門性を追求するProject Based Learning
(例)行政学の専門知識と技能が履修する前提で、現実的な政策を立案し、専門知識に裏打ちされた能力(=実践性)を身につける。

3

II : プロジェクト演習の特徴

- Project B L
- プロジェクト課題: 学外ご協力者様からあるいは学生自ら提案
→ 学生が選択し、チームを組んで取り組む
- 課題の絞り込み
→ 一斉授業とチームミーティングで絞り込む
- チーム活動～ピーク行事
→ 個人の学びとチームの成果
「個人の達成目標ルーブリック」等と各種成果物

4

II : プロジェクト演習HPとFB

HP
<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/>



FB
<https://www.facebook.com/IUChiikipg/>



5

II : 総合プレゼン講座

- 第1回 インTRODクシヨン(プレゼンテーションの定義と目的)
- 第2回 プレゼンテーションの企画から本番までのプロセス
- 第3回 PREP法とホールパート法の実践
- 第4回 伝わる文書構成はツリー構造
- 第5回 Power point操作編①: 基本操作の習得
- 第6回 Power point操作編②: スライドを「一目でわかる化」する・デザインマスタの作成
- 第7回 Power point操作編③: 図解とカラーリング
- 第8回 Power point課題作成: 第10回の課題発表に向けて演習
- 第9回 魅せるプレゼンターのスキル(立ち居振る舞い・発声方法・質問発問)
- 第10回 課題発表
- 第11回と第12回と第13回 活動報告会リハーサル
- 第14回と第15回 活動報告会

[シラバスの授業計画より]

6

II : 期待される五つの能力

日本経済団体連合会「2018年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」より

7

II : プロジェクト演習で身につく力

<p>社会人基礎力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームで働く力 ・ 考え抜く力 ・ 前に踏み出す力 	<p>期待される五つの能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション能力、協調性、誠実性 ・ 主体性 ・ チャレンジ精神
--	--

8

III : その先の学びへ

- ・ 1. 世界の俯瞰的理解
- ・ 2. 専門分野の学力
- ・ 3. 課題解決能力・コミュニケーション力
- ・ 4. 社会人としての姿勢
- ・ 5. 地域活性化志向

(人文社会科学部の五つのディプロマポリシー)

9

III : PBL系科目の新設

- ・ 地域PBL演習
プロジェクト演習Ⅲ・Ⅳ
地域課題の発見・解決プログラムⅠ・Ⅱ
自治体政策立案ゼミⅠ・Ⅱ
- ・ 社会調査演習
- ・ 法学応用講義・法学アドバンスト講義
- ・ 文化遺産実践演習

10

III : プロジェクト演習の使い方

- ・ Project BL・・・チームで働く
- ・ 多様性から専門性まで、さまざま・・・考え抜く
- ・ どれかを選択して履修する・・・前に踏み出す

11

ご清聴ありがとうございました

12

プロジェクト演習活動報告会

茨城大学DomaineMITO プロジェクトチーム

メンバー
金沢歩輝・藤川尚・佐々木幹太
根本真子・仲川大二郎・松永海渡

2019年12月21日
1

本日の報告内容

- Domaine MITO株式会社について
- 今年度の活動目的
 - ①プロジェクトの目的
 - ②チームの目的
- 主な活動内容
 - ①学生アペリティフ
 - ②SNS発信⇒SNS紹介(1)Twitter(2)Instagram(3)Facebook
 - ③ホームページ作成
 - ④イベント出店
 - ⑤新酒お披露目会への参加
- プロジェクトを通しての学び
- 結びに

2

➤Domaine MITO株式会社について

Domaine MITO株式会社はブドウの栽培からワインの瓶詰めまで全てを自らの手で行いワインを販売している会社です。2016年には、水戸市街地でまちなかワイナリーをオープンし醸造を始めました。県庁所在地ならではの都市性と緑豊かな地方性の両方を兼ね備えた水戸市の**アーバンワイナリー**として親しまれています。

3

➤今年度の活動目的

①プロジェクトの目的

DomaineMITO株式会社から提示された
【ワインを使った水戸のプロモーション】
という課題に取り組む

プロジェクトの到達目標は水戸を周知し、多くの人に実際に足を運んでもらうこと

4

➤今年度の活動目的

②チームの目的

○活動全体を通して身につけたい社会に出た際に役に立つ力

1. 全体把握力
個人個人で動く中でも、それぞれが今取り組んでいることを把握し、お互いに協力できるようにする
2. 企画力の育成
活動を通して様々な企画を行い、その中で企画を成功させるために必要なプロセスを理解し実行していく

5

➤主な活動内容

①学生アペリティフ

- ・日時：11月7日(木)
- ・水戸市泉町、マチノイズミ(多世代交流スペース)
- ・富本様が行っている「アペリティフ310」をモデルにターゲットを学生に絞って行った

・アペリティフとは
日本語では食前酒を意味する。
食欲をそそるために食前に飲むお酒のこと。
フランスでは軽食とともに食前酒を楽しむ習慣がある。

6

➤ **主な活動内容**

② SNS発信

○ ワインに関わりのある水戸のスポーツや文化のPR
Twitter、InstagramのアカウントとFacebookのページを使い、それぞれのユーザーに向けてDomaineMITO株式会社が関係するイベントの告知や自分たちの活動の紹介を行った

→ 水戸ワインやそれに関わる文化の認知度の向上

7

SNS紹介(1)Twitter



茨城大学×DomaineMITO (@domainemito)

8

SNS紹介(2)Instagram



茨城大学×DomaineMITO (@domainemito.university)

9

SNS紹介(3)Facebook

https://www.facebook.com/茨城大学Domaine-Mitoプロジェクトチーム-1453537618104524/settings/?tab=page_info&ref=page_edit



10

➤ **主な活動内容**

③ ホームページ作成

- ・ 作成に至った経緯
当初は水戸の魅力やワインに関するパンフレットを制作しようとしたが目的や効果が不明瞭だった。また費用の面でも断念。
→ その代用を果たし、かつ手軽に利用できるものとしてのホームページを作成
- ・ 内容
これまで行ってきた内容や行った場所についての説明、感想を詳細に記入(地図を表示する等)することでSNSとの差別化を行う

11

茨城大学Domaine MITOプロジェクトチーム ホームページ
(<https://domainemito-ibarakiuni.amebaownd.com/>)



12

➤ 主な活動内容

④ イベント出店

【内容】

販売のお手伝い

【目的】

Domaine MITO(株)の活動に対する理解

地域の方々・お客様との交流

【日程】

5/19 (日) 水戸ホーリーホック vs 柏レイソ @ケーズデンキスタジアム水戸

6/1 (土) 城里町古内地区古民家バル「島家住宅」

6/2 (日) 城里町古内地区「庭先カフェ」

10/5 (土)、6 (日) 茨城ゆめ国体 @アダストリアみとアリーナ

13

➤ 主な活動内容

⑤ 新酒お披露目会への参加

11月3日、DomaineMITO株式会社で醸造された2019年ワインの

お披露目会が行われた

一口オーナーやDomaineMITO株式会社にご縁のある方々が参加された

ため交流の機会となった

当日は宮本様より各種ワインの説明を受けたため、水戸ワインへの理解がより一層深まった

14

➤ プロジェクトを通しての学び

① 現状分析と目標設定の必要性

・現状分析と目標設定の必要性

→特にホームページ作成時

ホームページ作成に集中するあまり現状分析や目標設定が曖昧に

→プロジェクトの目的である水戸のプロモーションになる内容をうまく

取り入れることができず

→そこで現状を改めて確認、どのような効果が期待できるかなど話し合い

を重ね最終的には自分たちの目標に沿ったホームページが完成

15

➤ プロジェクトを通しての学び

② 企画することの難しさ、計画の重要性

・企画することの難しさ、計画の重要性

→チームの目的としてもあがっていたこの2点

学生アパリティフにおいて企画の時間が短く、告知がうまくでき

なかったために規模を縮小

→この経験から企画を成功させるためには計画が重要になること

を改めて学んだ

16

➤ プロジェクトを通しての学び

③ チーム内の意思疎通の大切さ

・チーム内の意思疎通の大切さ

→前期は定期的なミーティングを行っていたが、夏休みは日程を

合わせるのが難しく、個人個人の活動が中心になってしまった

その結果目立った企画を行うことができなかつたり、断念することがあったので、チーム内での積極的な意思疎通の重要性を学んだ

17

➤ 結びに

・チーム結成当初に構想していたことからかなりの修正が加わったが、メンバーの協力、そして様々な方に助けてもらいながら自分たちの思うワインを使った水戸のプロモーションに取り組むことができた

・DomaineMITO株式会社様を始め、支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。

18

水戸中心部の コミュニティ形成

チーム名「Mito Bloom」

メンバー 木村友紀奈 佐久間秀斗 小池さくら
松本 真奈 稲野邊優香 津田 玲菜

1

目次

1. プロジェクト開始の経緯
2. プロジェクトの目的
3. 310食堂とは
4. 活動の目標
5. 310食堂との活動
6. 目的・目標の達成
7. まとめ
8. 今後の展望

2

1. プロジェクト開始の経緯①

- ◆福島県富岡町を舞台に活動する「とみ咲く」チームとして結成
- ◆震災復興や地域コミュニティの強化が目的

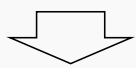
しかし...

富岡町からの課題取り下げにより
突如解散を余儀なくされた

3

1. プロジェクト開始の経緯②

水戸市で同様の活動ができないだろうか？



【仮説】
富岡町で問題化した「地域コミュニティの減少」は、
水戸市でも言えるのではないかな
→仮説の検証へ

4

1. プロジェクト開始の経緯③

水戸市の町内会や市役所の方々に、
水戸のコミュニティの現状をお伺いした

結果・・・コミュニティの希薄化がみられた
→強化したい！

5

2. プロジェクトの目的

水戸在住の人に地域への親しみを持ってもらう


定期的な交流イベントの実施
= 継続性のあるコミュニティ形成の一助
→310食堂の目的と重なる

310食堂の充実化・継続のお手伝い

6

3. 310食堂とは

主 催：310食堂実行委員会
 開 催：毎月第3土曜日
 場 所：マチノイズミ（泉町）
 食と農のギャラリー葵（南町）
 カフェリベル（南町）
 趣 旨：食を通じて、地域住民の
 交流の場となることを狙い

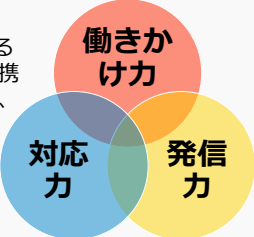


310食堂公式Facebookは
こちらから！

7

4. 活動の目標

◆ 310食堂の充実化を図るため、地域の方々と連携して活動していく中で、主に3つの力をつける



8

5. 310食堂との活動

◆ 親子参加型イベント
 通常の食堂終了後、お菓子作りのイベントを実施

◆ 310食堂PR動画作成
 310食堂の様子を撮影し、1分半と30秒程度の2つの動画を作成

9

5. 【1】親子参加型イベント

◆ 目的
 310食堂の充実化
 =通常、昼食を「食べる」ことでコミュニティに参加している子供たちが、「食べる」+「つくる」経験もできる

10

① イベントの概要

◆ 日時：10月19日（土）
 14：30～16：30

◆ 場所：マチノイズミ
 食と農のギャラリー葵

チラシは
1500枚配布！
現物は別紙をご覧ください！

「サツマイモの茶巾づくり」

11

② イベント当日の様子

親子26名、スタッフとして茨城大学からボランティア7名が参加

(写真はスライドをご覧ください！)

12

③ イベントを終えて

参加者の方々にご好評いただいたものの、

- ・世代間の交流をより増やすべき
- ・イベントの準備が不十分

といった改善点が見つかった

⇒ 2月に再度イベントを実施し活かす

13


5. 【2】310食堂PR動画作成

◆目的

310食堂の継続
 →学生ボランティアの募集
 →まずは310食堂を知ってもらうところから

◆用途別に、2種類の動画を作成

◆アンケートで効果を検証



14

① PR動画の上映

◆30秒の動画
 →SNSを使い、多くの人に気軽に见てもらおう

◆1分半の動画
 →ターゲットを人文社会科学部の学生に絞り、より詳しく活動の様子を伝える

15

② PR動画の上映

◆上映日	◆場所
12月3日(火) 12:10~	人文講義棟10番教室
12月6日(金) 12:10~	人文講義棟13番教室

(当日の様子はスライドをご覧ください!)

16

③ PR動画の上映



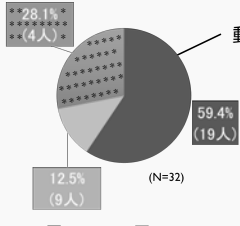
30秒バージョン



1分半バージョン

17

④ PR動画の効果



動画で初めて310食堂を知った
 ↓
6割近く!

- ・310食堂の活動を広めることができた
- ・今後ボランティアに繋げていきたい

■ 初めて知った ■ デザートづくりのチラシで知った ■ 以前から知っていた

18

6. プロジェクト目的の達成

◆プロジェクトの目的


- ・310食堂の充実化
→親子参加型イベントの成功により、**達成**
- ・310食堂の継続のお手伝い
→PR動画を作成。認知度の向上により、**達成**

19

6. 活動目標の達成

◆活動の目標

地域の方々との連携を通し
3つの力を習得
→**目標達成!**



20

7. まとめ

1年間の活動を通して...

- ・地域コミュニティの重要性や必要性を改めて感じた
- ・責任感やチームワーキング能力が向上した
- ・水戸と水戸の方々がもっと好きになった!

21

8. 今後の展望

◆10月に開催したイベントの反省を踏まえ、2月に2度目の親子参加型イベントを開催

→ イベントの具体化・準備

22

謝辞

Mito Bloomチームの活動に当たりましては
310食堂実行委員会様を始めとして
沢山の方々にご支援を戴きました
末尾ながら、心より感謝申し上げます

Mito Bloomチーム一同

23

ご清聴ありがとうございました

24

310 食堂 PR 動画視聴者アンケート 質問表

問1. 以前から310食堂を知っていましたか？

- 選択肢〔1〕 はい
- 〔2〕 はい(授業内で配布されたチラシで知った)
- 〔3〕 いいえ

問2. (問1ではいと答えた方に質問です。) どの程度知っていましたか？

- 選択肢〔1〕 名前を聞いたことがある
- 〔2〕 活動内容について知っていたが行ったことはない
- 〔3〕 行ったことがある
- 〔4〕 その他(自由記述)

問3. 動画を見てどう感じましたか？(複数回答可)

- 選択肢〔1〕 楽しそう
- 〔2〕 おいしそう
- 〔3〕 行ってみたい
- 〔4〕 ボランティアとして参加してみたい
- 〔5〕 なんとも思わない
- 〔6〕 あまり興味がない
- 〔7〕 つまらなそう
- 〔8〕 よくわからない
- 〔9〕 その他(自由記述)

問4. 感想や質問等ございましたら、ご自由にご記入ください！(記述式)

問5. 学科

- 選択肢〔1〕 現代社会学科
- 〔2〕 法律経済学科
- 〔3〕 人間文化学科
- 〔4〕 他学部

問6. 学年

- 選択肢〔1〕 1年
- 〔2〕 2年
- 〔3〕 3年
- 〔4〕 4年
- 〔5〕 その他(記述式)

問7. メールアドレス(任意記述)

活動報告会

KoriNa

松山 実玖 中山 増加 安藤 未羽
金子 友香 相島 優里香 比氣 梓

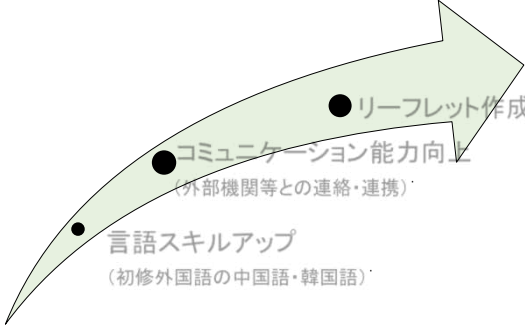
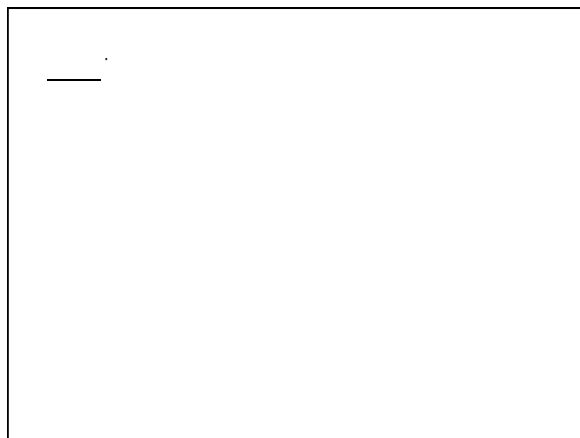
1

チーム名「KoriNa」とは？



Korea China

↳KoriNa↲




- リーフレット作成
- コミュニケーション能力向上
(外部機関等との連絡・連携)
- 言語スキルアップ
(初修外国語の中国語・韓国語)

ボランティアガイド
→現地での応用力が必要

断念!


方針転換



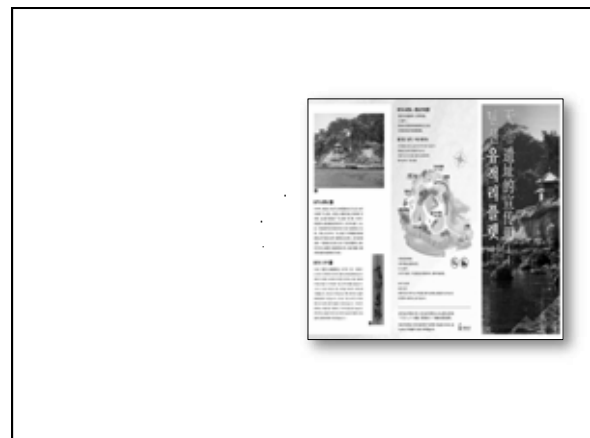
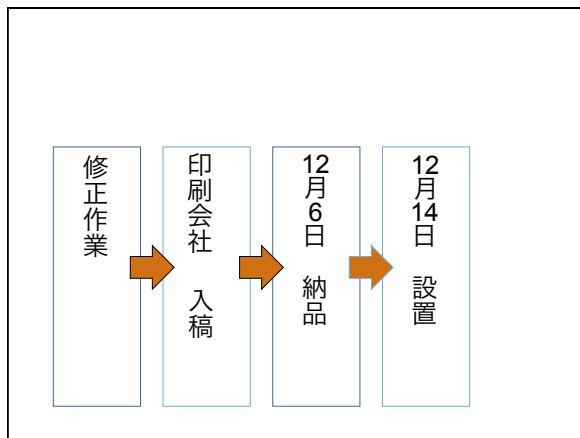
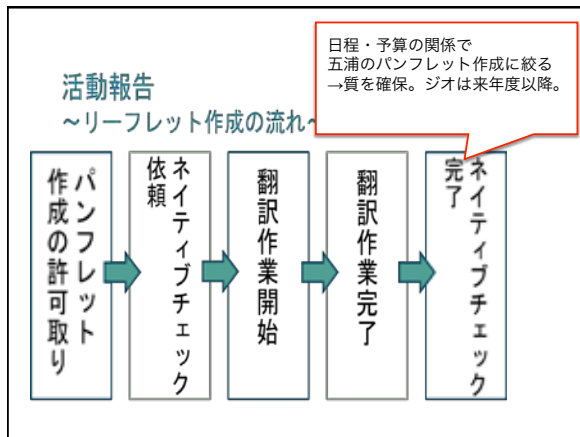
リーフレット作成
→確実なスキルアップ
→成果物として残る

チームの3つの目標を達成することで

茨城の観光資源のPRに貢献

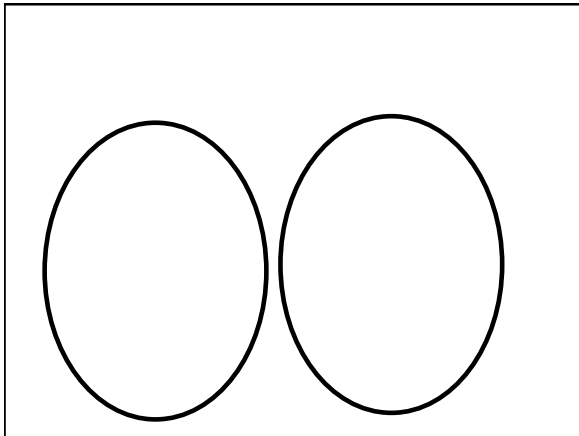


- リーフレット作成
- コミュニケーション能力向上
- 言語スキルアップ



ご協力いただいた方々

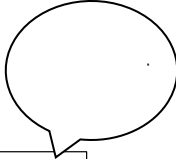
- 茨城県北ジオパーク構想関係の皆様
- 五浦美術文化研究所関係の皆様
- 翻訳文のネイティブチェックをしていただいた皆様
- 写真データをご提供いただいた皆様
- 印刷していただいた皆様



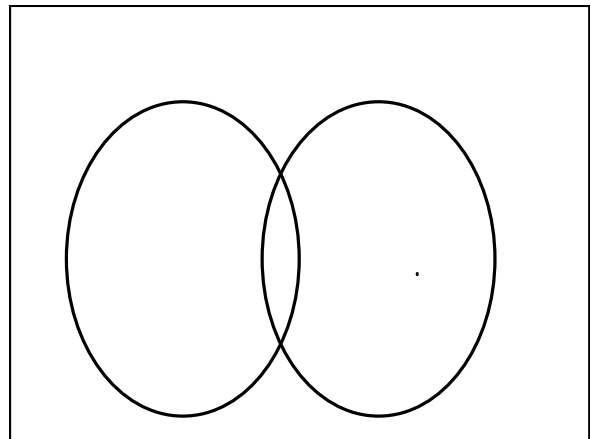
語学検定

TOPIK()	2
		4

その他... 語学に触れる機会の増加
留学生との交流
留学への参加



1. リーフレット存在の効果を測る
2. パンフレットを五浦以外に配布



ご清聴ありがとうございました

さとみ・あい 2019年度活動報告

さとみ・あい2019メンバー

4年	江口 紗姫	大貫 史織	大村みるほ
	北野 友香	塩手菜々美	戸谷美花子
	永田 典子	野平 知里	羽田野里菜
3年	寺元 彰徳	久利生秋華	
2年	池田 拓野	川和 里帆	軍司 真奈
	関口 佳恵	澤田由季乃	計16名



1

目次

- プロジェクトの目的
- チームの目的
- プロジェクト活動の3本柱
- 今年度の活動報告
 - ①Openday ②米 ③里川カボチャ
- まとめ
- 来年の展望

2

常陸太田市 里美地区とは



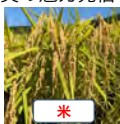
ココ

http://josen.snn.go.jp/zonnet/completion/others_baraki_hitachioda.html <http://www.city.hitachioda.ibaraki.jp/page/page001751.html>

3

さとみ・あいとは

- 2012年に結成
- 里美地区に活気を！
- 里美について知ってもらおうきっかけづくり
- 里美の魅力発信



米



里川カボチャ

里川地区の在来カボチャ
薄ピンクの皮と
ホクホクした食感、
糖度の高さが特徴
2019年1月に商標登録

4

- さとみ・あいは8年目
- しかし今年度のメインメンバーは1年目

今までの
活動


里美が
求めている
活動

私たちが
やりたい
活動


→**どのように活動するのか苦戦した1年**

5


チームの目的




主体性



働きかけ力



コミュニ
ケーション能力



課題解決能力

活動を通して主に上記4つの能力を養う

6

プロジェクトの目的

広報、販売などを通じて里美の情報を発信

↓

里美について知ってもらいきっかけをつくる

↓

魅力を知ってもらい、関係人口増加を目指す

7

今年の活動の三本柱



荷見誠様
里川地区
里川カボチャ
研究会長



小林信房様
大中地区
地域おこしの
レジェンド



石川歩様
大中地区
オランダ帰りの
イマドキ有機野菜農家

8

活動報告 ①Open day

10月12日(土)
石川様の畑にて開催予定

有機栽培の小豆や
様々な野菜の収穫体験



台風により中止...

9

活動報告 ②米


5月1日 田植え
9月15日 稲刈り・おだかけ
9月29日 脱穀
11月2.3日 販売



10

さとみ 秋の味覚祭


11月2日(土)、11月3日(日)
地元、地域外からも多くの来場者
お米を販売し、**里美のお米のおいしさをPR**



11

積極的な
声掛けによる
アピール

工夫した
販売戦略



**全100キロ分 完売
約80名の方にご購入頂けた！**

活動報告
③里川カボチャ

- ・播種 (種まき)
- ・植え付け・藁敷き
- ・茨苑祭出店

13

未曾有の大凶作...

本来の里川カボチャの出来具合 (2018年の写真)

今年度の里川カボチャの様子 (9月14日撮影)

収穫量はわずか昨年の半分...

14

販売時に里川カボチャ、里美地区のPR

約300個見事完売！！
里川カボチャの存在や魅力を
知ってもらえた

15

- ・販売時にお米、里川カボチャの説明
- ・里川カボチャ紹介クリアーフ配布

使用したポップ

お米、カボチャコロッケの
販売を通じて
里美地区の魅力のPRができた

16

まとめ

販売・広報を通じて里美地区について
知ってもらうきっかけを作ることができた

しかし...

- ・関係人口創出に寄与することは出来なかった
- ・SNSの発信不足

17

→ 私たちが自身が里美地区を知り、
関係人口になることができた

18

主体性

働きかけ力

コミュニケーション能力

課題解決能力

情報収集能力

19

来年度の展望

- 関係人口の創出
- 里美地区の魅力の発信

➡より多くの人に知ってもらい、
里美と関わりを持ってもらう

➡里美地区を元気に！

20

御礼

さとみ・あいを知って下さっている
全ての皆様へ
心より御礼申し上げます

21

ご清聴ありがとうございました

22

プロジェクト演習活動報告会

異文化交流プロジェクト 大甕マップ作成プロジェクト 活動報告会

茨城キリスト教大学現代英語学科 E-girls Rチーム
 3年 平山 可恋 (リーダー・会計)
 3年 太田 妃香 (副リーダー・書記)
 4年 矢野 真佐子 (書記)

1

目次

- I. 活動の動機
- II. 活動報告
 - II-1 異文化交流プロジェクト
 - II-2 大甕マップ/Omika Map作成プロジェクト
- III. プロジェクト実習を通して得られた学び
- IV. お世話になった方々

2

I. 活動の動機

3

国際社会で活躍できる人材育成のため、国際理解教育の充実や英語によるコミュニケーション能力の育成が重要
(茨城県教育委員会)

現状①

- ・ 学生が国際的な場面でコミュニケーションをとる機会が少ない

現状②

- ・ 大みか町を訪問する外国人の目的が通勤・通学に限られており、街自体への興味・関心が薄く交流がない

4
茨城県教育委員会HP中略ps://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/koukou/gakuryaku/kokusai/index.html#最終アクセス日2019/11/20

目標①

- ・ 茨城県の若年層と異文化を持つ人との交流を図る機会を設け、留学生と地域を結び、異文化交流を促すこと。

異文化交流ができるイベントの開催

5

目標②

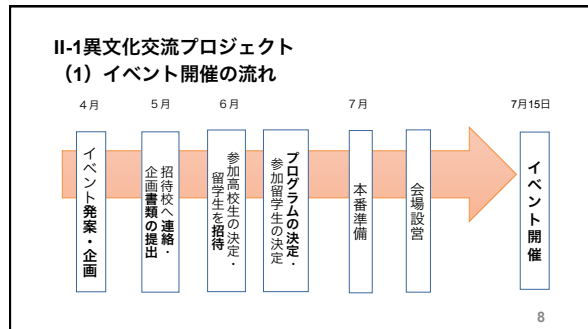
- ・ 大みか町の観光資源について英語で発信し、街に対し親しみを覚えてもらうきっかけを作ること。

発信するためのツールとしてのマップの作成

6

II.活動報告

7



- ### (2) イベントに関心を持ってもらうために
- | | |
|---|---|
| <p>インターン・留学生向け</p> <ul style="list-style-type: none"> • 他大学のインターン生 留学生との交流 • 高校生との交流で新しいコミュニケーション体験 | <p>茨城県の高校教員・生徒向け</p> <ul style="list-style-type: none"> • 異文化に触れることで新しい価値観を知る • 英会話を楽しく学ぶ • 文化を楽しく学ぶ |
|---|---|
- 9

(3) イベントの実施日及び参加者

『異文化交流プロジェクト』
 日時 令和元年7月15日 13:00~16:00
 場所 茨城キリスト教大学3号館3405教室
 参加者 全46名 (内訳高校生34名、茨城大学の留学生3名
 本学インターン生・留学生9名)

10

- ### (4) 当日プログラム内容
- | | |
|-----------------------|----------------|
| OPENING CEREMONY | 開会式 |
| SELF-INTRODUCTION | 自己紹介 (アイスブレイク) |
| FRUIT BASKET TURNOVER | なんでもバスケット |
| JENGA QUESTION | ジェンガクエスチョン |
| CULTURE EXCHANGE GAME | 文化交流ゲーム |
| CLOSING CEREMONY | 閉会式 |
- 11




(5) 当日のようす
 Jenga Question
 ジェンガクエスチョン

Culture Exchange Game
 文化交流ゲーム



13

(6) アンケート結果
 ・調査対象 異文化交流プロジェクト参加者 46名
 1) 今回参加していかがでしたか？



満足	普通	不満
45名	1名	0名


14

(6) アンケート結果
 2) 自由記述 (感想)

- ・色々な国の方と交流できてたのしかったです。
- ・行ってみたい国の人とお話できて、とても良い時間を過ごせました。
- ・楽しかった！もう一度参加したい。
- ・I enjoyed this event very much !

15

(6) アンケート結果
 3) 同イベントにまた参加したいですか？



達成

参加する	参加しない	わからない	未回答
40名	2名	2名	2名

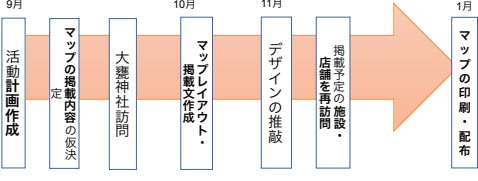
16

II-2大甕マップ/Omika Map作成プロジェクト
 (1) 計画目標

昨年度のメンバーが作成した大甕駅周辺の地図を利用し、観光情報も加えた**大甕マップの完成・配布**を目指す。

17

(2) 大甕マップ作成の流れ



18

(3) 活動内容
①大甕神社訪問



インターン生とともに大甕神社を訪問し、外国人がどのようなことに疑問を持つのかを理解した 19

(3) 活動内容
②完成したマップ (表)



20

(3) 活動内容
③完成したマップ (裏)



21

(5) 引継ぎと今後の展望

- i. マップをより多くの施設・店舗に設置
- ii. 掲載施設・店舗内の英語表記の充実化
- iii. マップを利用した大甕駅周辺ツアーなどのイベントの開催

観光客の呼び込み、外国人と地域住民の交流の増加

22

III.プロジェクト実習を通して得られた学び

23

(1) 二つの活動の振り返り
異文化交流プロジェクト

- 告知ポスターの情報量が少なかった。
- 高等学校側と伝達ミスがあり、当初の予定以上に高校生の参加者が増えた。
- アンケートの日本語版の部数が足りなかった。
- 初期はメンバーの得意不得意を把握しきれず、仕事量に差がでることがあった。

24

大甕マップ/Omika Map作成プロジェクト

- 計画通りに進めることに固執し、作業の完成度やメンバーに対する思いやりが欠ける場面があった。
- 作業量が多く、時間内に終えることが困難だった。
- 必要な情報を抽出し、マップのデザインを考えることが大変だった。
- アポイントを取る必要があった。

25

(2) 学び

**① 計画を立てることの重要性
改善策**

ある程度のゆとりをもたせて計画をたてる。

活動の重要度に応じて順番を決める。

一つ一つの活動責任者を決め、随時メンバーに報告する。

26

② チームワークの大切さ

改善策

一人で作業せず、全員で協力して作業する。

自分の意見をチーム全員に話す。

27

③ 社会人としての基礎力

- 正しいメール作成方法や電話の取次ぎ方、パワーポイントやワードの使用法など社会人として求められる基礎知識。
- 仕事の依頼の仕方やリーダーとしての務め。
- 自らの活動を紹介する広報の方法。

28

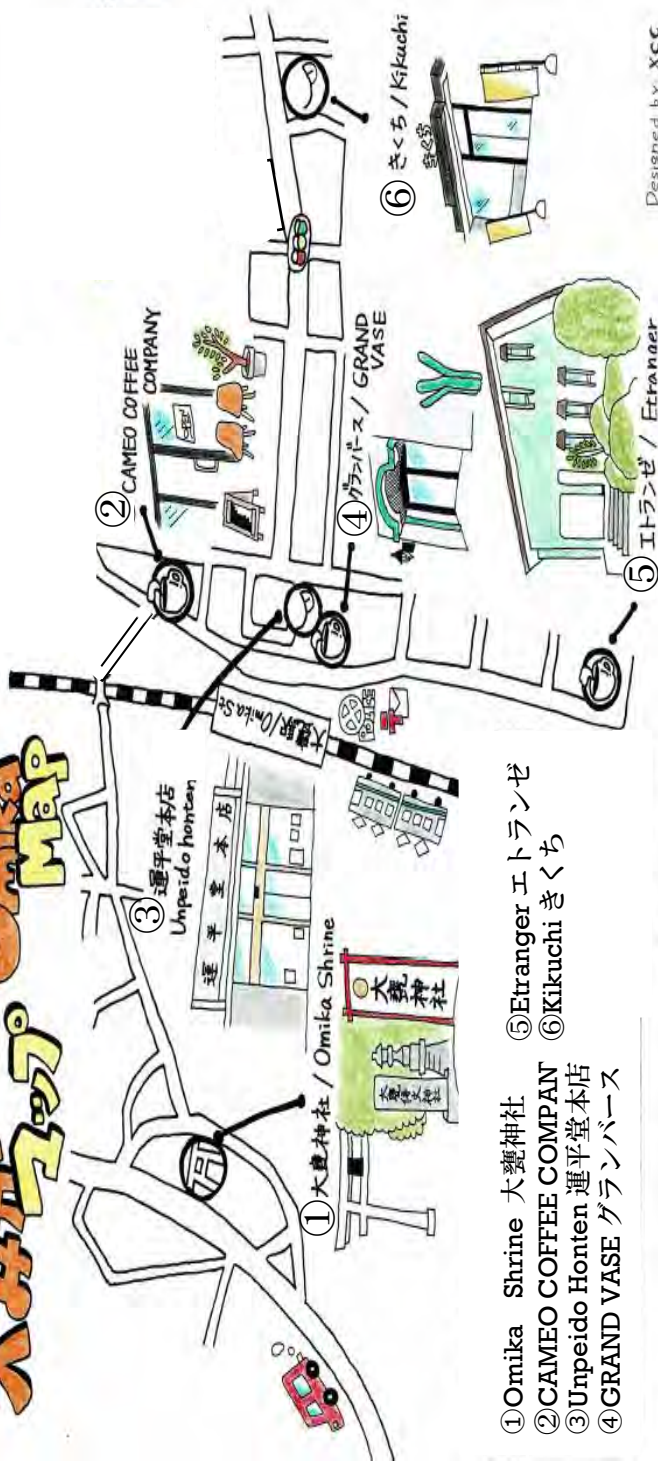
IV.お世話になった方々

29

茨城キリスト教学園高校の皆様
 水戸啓明高等学校の皆様
 湯本高等学校の皆様
 日立第二高等学校の皆様
 太田第一高等学校の皆様
 水戸第三高等学校の皆様
 日立北高等学校の皆様
 大成女子高等学校の皆様
 いわき光洋高等学校の皆様
 茨城キリスト教大学 入試広報部の皆様
 茨城キリスト教大学 国際理解センターの皆様
 茨城大学 留学生の皆様
 茨城キリスト教大学 留学生・インターン生の皆様

30

大甕神社 Omika Map



- ① Omika Shrine 大甕神社
- ② CAMEO COFFEE COMPANY
- ③ Unpeido Honten 運平堂本店
- ④ GRAND VASE グランバース
- ⑤ Etranger エトランゼ
- ⑥ Kikuchi きくち

Designed by XCC



Omika Basic Information:

Omika is a town located in Hitachi city, the northeastern part of Ibaraki Prefecture.

Access: Take the Joban Line (bound for Takahagi or Iwaki) for 4 stops from Mito station get off at Omika station.

Publisher: Ibaraki Christian Univ.
(Team: E-girls R)

TEL: 0294-52-3215

References:

神道神社「Q. 神社の参拝・お参りの仕方・作法って？」 <<https://shinto-jinja.jp/?p=1261>>
(Last access date 2019/10/30)
大甕神社 HP<<http://omikajinja.sakura.ne.jp/>>
(Last access date 2019/11/7)

Traffic guide

Around

& Omika Shrine



Issued in December 2019

① Omika shrine



Basic information
 Built in 600 B.C, the shrine has a long history. The enshrined deities are *Takehazumi no Mikoto*, the god of fabrics, and *Mikaboshi Kagaseo*, the god of stars.
 Festival: "Shikinensai"
 This festival is held once every 5 years to pray for the peace of Omika town, a good catch of fish, and a rich harvest.

Address: 6-16-1, Omika, Hitachi, Ibaraki
 ☎: 0294-52-2047
 💰: Free
 ⌚: 9:00 ~ 16:00 [office] / open 365 days.
 Closed: None
 Access: about 15 minutes on foot from Omika station.

The main shrine is located on the mountain behind the main altar of the shrine. You need to climb the mountain to see the main shrine.

The Omika main shrine →



Shrine Etiquette

First, wash your hands to purify your mind and body

- (1) Scoop up water in a ladle with your right hand and pour some water over your left hand.
- (2) Next, hold the ladle with your left hand and pour water over your right hand.
- (3) Then, pour water over your left hand again and rinse your mouth.
- (4) Finally, use the remaining water to rinse the handle of the ladle.



Second, go to the main altar of the shrine.

- (1) Put some money into the offertory box.
- (2) Bow twice, then clap your hands twice.
- (3) Pray in your mind and bow one more time.



② CAMEO COFFEE COMPANY

Address: 2-24-5, Omika, Hitachi, Ibaraki
 ☎0294-51-1367 ⌚11:00~19:00
 Closed: Sunday, Monday
 Access: About 1 minute on foot from Omika station. This coffee shop is loved by many foreign visitors. You can try various delicious baked sweets and enjoy coffee with original latte art.

③ Unpeido Honten

Address: 1-6-7, Omika, Hitachi, Ibaraki
 ☎0294-52-3257 ⌚8:30~18:00 Closed: None
 Access: About 3 minutes on foot from Omika station. This shop is famous for sweets made with sweet bean paste. You can try Japanese traditional buns filled with sweet bean pastes called "MANJU".

④ GRAND VASE

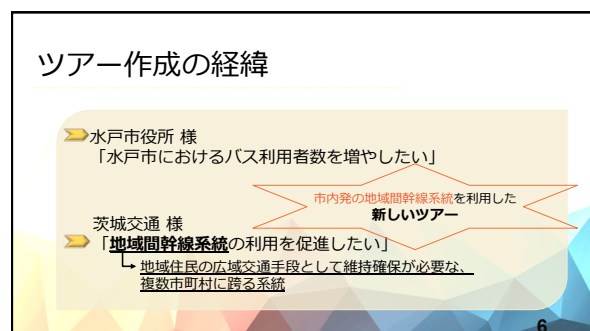
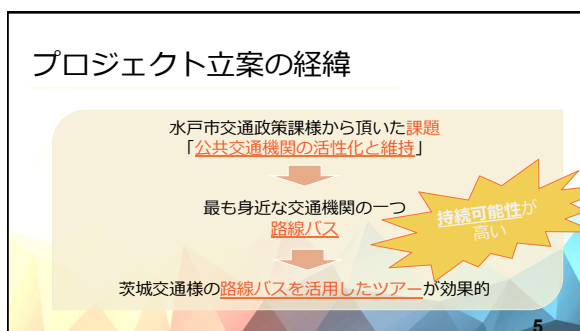
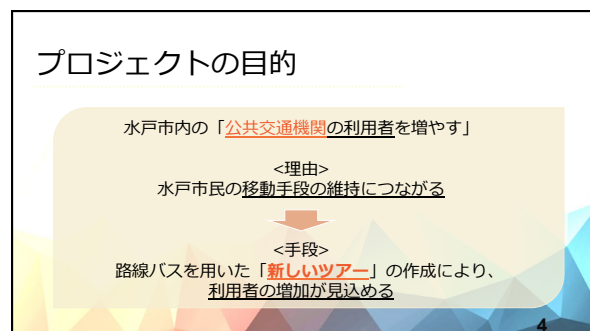
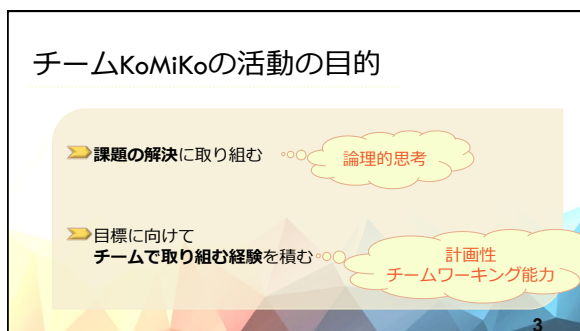
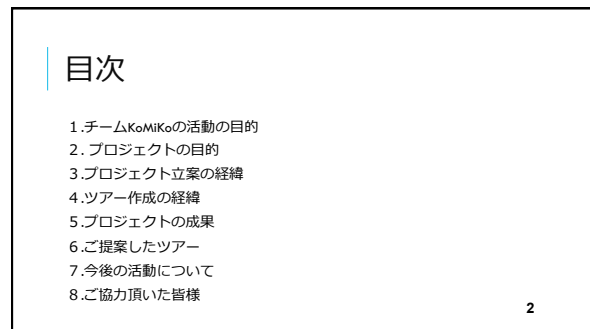
Address: 1-6-7, Omika, Hitachi, Ibaraki
 ☎0294-54-1818 ⌚8:30~19:00 (Sunday ~18:00)
 Closed: Tuesday, the first and third Monday
 Access: About 1 minute on foot from Omika station. This shop is one of the most popular cake shops in Omika town. You can enjoy a wide variety of cakes and drinks here.

⑤ Etranger

Address: 1-26-5, Omika, Hitachi, Ibaraki
 ☎0294-53-7274
 ⌚Monday to Friday 7:30~20:00 Sunday 8:00~16:00
 Closed: None
 Access: About 15 minutes on foot from Omika station. Etranger is a traditional coffee shop. You can enjoy delicious coffee in a relaxed atmosphere.

⑥ Kikuchi

Address: 1-2-10, Omika, Hitachi, Ibaraki
 ☎0294-52-3166 ⌚9:00~19:30
 Closed: New Year's Day
 Access: About 25 minutes on foot from Omika station. This shop is one of the most famous sweet shops in Ibaraki. You can buy unique Ibaraki sweets made with organic ingredients.



プロジェクトの成果

現在...

御前山トレッキングコース
大洗コース
採用検討中！

7

ご提案したコース

① **御前山トレッキングコース**

- ・御前山登山、お買い物
- ・道の駅かつら名物「かつどろ」1個プレゼント
- ・個人利用だけでなく団体にも
例) 登山系サークル、アクティブシニア

8

ご提案したコース

② **大洗コース**

- ・乗り放題のフリー切符で、自由に大洗・那珂湊の街を散策
- ・いくつかのモデルコース
- ・車を持たない学生向け

9

今後の活動について

- ・チラシの作製、配布
- ・プロジェクトの成果の検証
→利用者数調査
- ・後続のチームへプロジェクト課題提案

10

ご協力頂いた皆様

- ・茨城交通株式会社 様
- ・水戸市交通政策課 様
- ・株式会社桂ふるさと振興センター 様
- ・茨城県公共交通活性化会議事務局 様
(令和元年度地域公共交通利用促進活動助成金を頂きました)

11


ご静聴ありがとうございました

チームKoMiKo

12

プロジェクト演習活動報告会

こみフェスチーム



中崎航汰 大塚萌 田岡
真美子
庄司果織 小野嶺奈 黒澤
卓也

目次



- ◆ こみっとフェスティバルとは
- ◆ 活動開始の経緯
- ◆ 目的・目標
- ◆ 行った活動
- ◆ 今後の展望
- ◆ お世話になった方々

2

こみっとフェスティバル

水戸市内を中心に活動する
NPOやボランティア団体などが集まり、
活動の発表や展示、相談や体験ができるイベント


2020年2月15日(土)
イオンモール水戸内原にて開



3

活動開始の経緯


- ◆ 水戸市役所市民生活課様から課題提案
- ◆ 水戸市のボランティア現状
→若者にボランティアの良さを知ってほしい!



4

目的

- ◆ こみフェスの市民への周知
- ◆ 若者にボランティアの良さを知ってもらう



5

目標


- ◆ 昨年よりも来場者数を増加させる
- ◆ ターゲットに合った広報活動
→若者



6



行った活動

- ◆ こみフェス実行委員会への参加
- ◆ 市民活動への参加
- ◆ アンケート作成
- ◆ 茨苑祭での宣伝活動
- ◆ 130周年記念




こみフェス実行委員会への参加

- ◆ こみフェスの市民への認知、若者への参加を促すために**広報を担当**
- ◆ Twitter、Instagramの更新
- ◆ ラジオ出演 FMぱるるん 水戸こどもの劇場 大内様のご協力



市民活動への参加

- ◆ 子育て支援BE-LIEFさん主催 みんなで手をつなごう♪ジョイントコンサート(参加日:8月18日)
- ◆ ペンギンくらぶ(参加日:8月21日)





アンケートの作成

- ◆ 既存アンケートの改善
- ◆ 水戸市のボランティアの現状について知る→茨城大学の学園祭で配布、回収

茨苑祭での宣伝活動

- ◆ タピオカの販売:ターゲット若者狙い
- ◆ こみフェス宣伝のシールをカップに貼り、宣伝
- ◆ アンケートの配布、



実際に販売したタピオカです!




水戸市政130周年事業


水戸市民130人の笑顔

- ◆インタビュー
- 「あなたが感謝したい人は？」
- 市民の方々にインタビュー！
- ⇒当日イオンモール水戸内原で上映予定
- 「130の笑顔」周りにメッセージカード掲載





13

今後の展望



- ◆現在の目標達成率について
- ◆SNS広報
- ◆ラジオ等のメディア出演
- ◆水戸市政130周年記念物作成
- ◆本番当日→**司会進行、SNS情報発信**



14

お世話になった方々

水戸市役所市民生活課の皆様

こみっとフェスティバル実行委員の皆様

その他、私たちの活動を支援してくださった皆様

15

ご清聴ありがとうございました！



2月15日

お待ちしております！

16

データ活用による ICT学習教材の提案

IBADAI×ICTラボ

小笠原彩葉 生田梨帆 岸朱里 並木舞香
栗原千伶 小瀧千尋 関澤南


目次

- (1) プロジェクトの課題
- (2) 「インターネット検定」とは
- (3) チームの活動目標
- (4) プロジェクトの流れ
- (5) 活動内容
 - ①カリキュラム改訂案の検討
 - ②公式サイト改訂の検討
- (6) プロジェクトの成果と学び
- (7) 今後の課題

謝辞

(1) プロジェクトの課題


- インターネット検定のテキストである、「.com Master BASIC」のカリキュラム改訂
→大学生のインターネット利用を調査し、その結果を踏まえた改訂案を提出する。



- インターネット検定の公式サイト (www.ntt.com/com-master) の改訂
→NTTコミュニケーションズ株式会社様の課題・要望を把握した上で、**ページ構成、画面遷移（操作性）、表示方法、訴求内容** 等について、利用者の目線で検討を行い、改訂案を提案する

(2) 「インターネット検定」とは

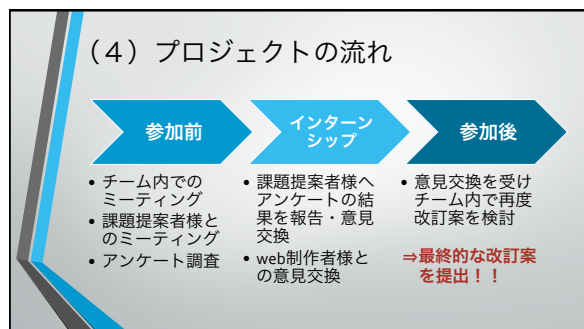
- NTTコミュニケーションズ株式会社が実施するICTスキル認定資格。
- インターネットの基礎知識から、ビジネスの最前線で活かせる実践的なICT知識を身に付けることができる。



(インターネット検定公式サイトより)

(3) チームの活動目標

- チーム一人ひとりが自分の役割の仕事を全うし、お互いのフォローを心がける。
- 輝かしい成果を出すことよりも、課題達成にむけての過程を大切にする。
- 曖昧な課題にも、解決に向けて自分なりの糸口を見つけ、最後まで取り組む。



●夏季インターンシップ

受入先：NTTコミュニケーションズ株式会社
 日時：2019年8月22日～23日 (2日間)

- ・カリキュラム改訂に関するアンケート分析状況の報告
- ・公式サイト改訂に向けたweb制作担当者様との打ち合わせ
- ・オフィスツアー
- ・会社説明
- ・自己分析ワーク 等

(5) 活動内容

①カリキュラム改訂案の検討

(主な実施内容)

- ・チーム内ミーティング(週1回ペース、20回程度)
- ・提案者様とのwebミーティング
- ・現行テキストの読み込み
- ・インターネットに詳しい茨城大学の教員へヒヤリング
- ・2段階にわたってのアンケート
 - ...プレアンケート：Google Formで実施。141名回答。
 - 本アンケート：授業時間に紙を配布・回収。141名回答。
- ・アンケート結果の集計・分析

(成果物)

- ・追加すべき項目を検討し、改訂案を作成
 ...[追加項目] [追加ページ] [狙い・目的] [理由(データを基に)] を記載

(反映状況)

- ・新テキストへ改訂案が一部採用されている。

※執筆期間中のため変更の可能性あり

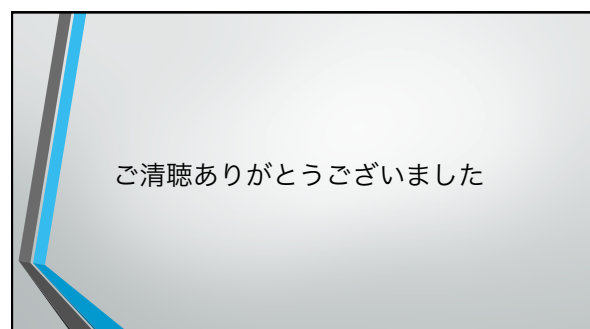
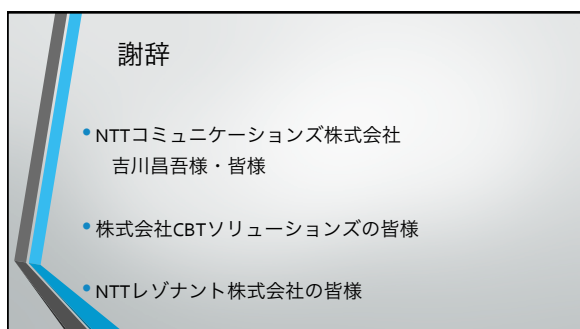
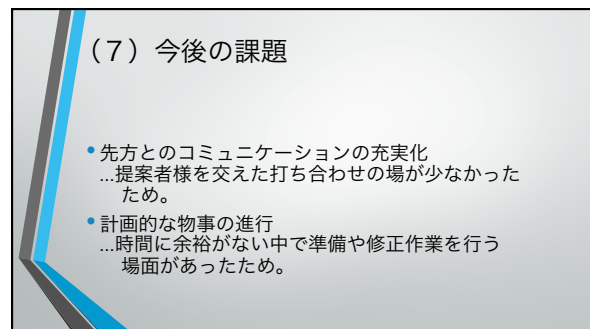
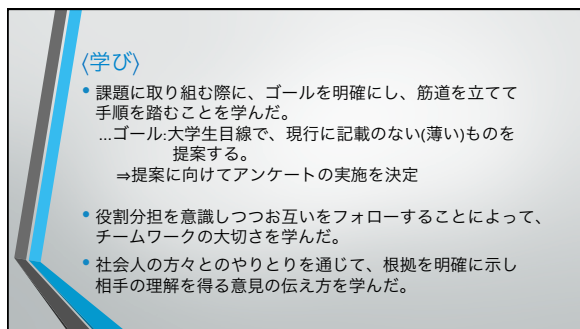
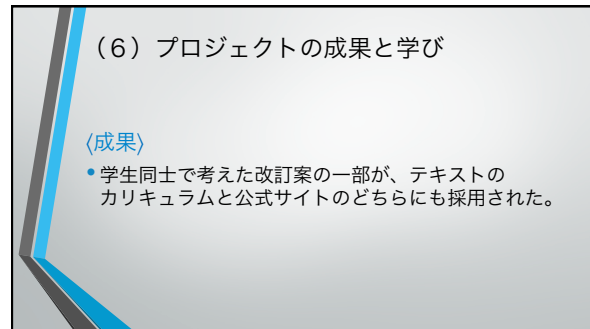
②公式サイト改訂案の検討

(主な実施内容)

- ・チーム内ミーティング (週1回ペース、20回程度)
- ・提案者様とのwebミーティング
 ...提案者様からの要望や現行公式サイト上の課題等を確認
- ・現行公式サイト上の問題点の把握と改訂案のアイデア出し
- ・他の検定サイトとの比較
- ・web制作担当者様との意見交換 (インターンシップ内に実施)
- ・web制作担当者様のご提案内容との比較
- ・上記を受けての追加提案取りまとめ

(成果物)

- ・大学生目線での公式サイト上の改訂案を作成
 ...合格者の声とサンプル問題の解説の掲載、2種類の資格の色分け表示など
- ・Web制作担当者様のご提案に対する追加提案を提示
 ...説明文への内容補足など



メジャー・サブメジャー制 と「実践的科目・PBL系科目」

田中 裕
(人文社会科学部教務委員長)

- 1 人文社会科学部のメジャー・サブメジャー制
- 2 人文社会科学部地域志向教育プログラム
- 3 地域PBL演習の構造
- 4 人文社会科学部の「実践的科目・PBL系科目」

1

人文社会科学部の メジャー・サブメジャー制

人文社会科学系は役に立たない？
平成27年6月8日付文科省通知「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」

特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする。

2

人文社会科学部改革のポイント

現代社会学科 130名	<p>メディア文化メジャー 社会学をベースにメディアの特質・情報の読み方・発信力を養成。</p> <p>国際・地域共創メジャー 社会学・地理学・国際学等をベースに国内外地域の読解力を養成。</p>	<p>メディア文化</p> <p>国際・地域共創</p>	<p>・民間企業(特にメディア分野や地域金融機関) ・地方公務員 ・大学院進学</p>
法律経済学科 120名	<p>法学メジャー 法学の全体像を学び生活や企業の抱える課題を考察。</p> <p>経済学・経営学メジャー 経済学・経営学をもとに「地方創生」時代の経済政策、企業マネジメントを学ぶ。</p>	<p>法学</p> <p>経済学・経営学</p>	<p>・民間企業(金融・物販) ・国家公務員、地方公務員 ・司法書士、行政書士 ・大学院進学</p>
人間文化学科 110名	<p>文芸・思想メジャー 文学・思想・言語学を学び「こぼし」を聞き、社会を方向付ける発想を考える。</p> <p>歴史・考古学メジャー 日本及び世界の文化遺産・歴史を学び、それを活かしたまちづくりを構想する。</p> <p>心理・人間科学メジャー 心理学を中心に、人間の心のはたらき、行動、文化の可塑性と多様性を学ぶ。</p>	<p>文芸・思想</p> <p>歴史・考古学</p> <p>心理・人間科学</p>	<p>・民間企業(金融等) ・地方公務員 ・学芸員、文化財専門職 ・公務員心理専門職 ・大学院進学</p>

体系的な専門的知識 複眼的視野or実践的能力

3

地域を支え地域に支えられる教育

人文社会科学部での「地域」体験を自分の「地域」で活かす

シンポジウムなどの開催

案内板などの作成



茨城大学人文社会科学部地域体験研究会
常総市地域歴史シンポジウム

文化財などの保全

観光施設などのモニター

4

人文社会科学部の メジャー・サブメジャー制

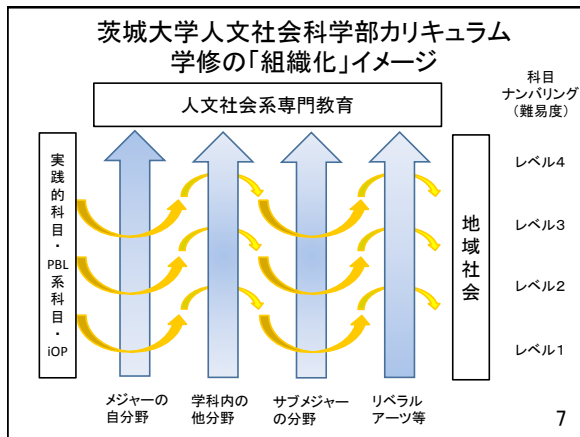
- ・体系的な専門的知識と、複眼的視野または実践的能力を、必ず身に付けるカリキュラム(卒業要件)
- ・科目ナンバリング対応の積上型カリキュラムにより戦略的にディプロマポリシーを達成

5

- ・人文社会科学部ディプロマポリシー
- ・人文社会科学部カリキュラムポリシー

お手元の資料をご覧ください

6



人文社会科学部 地域志向教育プログラム

カリキュラムポリシーに位置づけられた学部の中核的サブメジャープログラム

HPはこちら

全学開講科目群

人文社会科学部独自の科目群

地域志向科目: 地域の持続的発展を考える、地域を題材とする、学科専門科目群

地域PBL科目: サブメジャーに関わらず、誰でも履修できる、学部共通専門科目

8

地域PBL演習の構造

下記3カテゴリーから選択履修

- ・ カテゴリー1「自治体政策立案ゼミⅠ・Ⅱ」
(より専門性をもった自主的活動での学修)
- ・ カテゴリー2「地域課題の発見・解決プログラムⅠ・Ⅱ」(専門性と多様性の中間的学修)
- ・ カテゴリー3「プロジェクト演習Ⅲ・Ⅳ」
(より多様性をもった自主的活動での学修)

9

人文社会科学部の 「実践的科目・PBL系科目」

専門教育の縦串に対する
横串の「実践的科目・PBL系科目」の設置

既存のPBL科目: プロジェクト実習→プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ (Lev.2)

新設の「実践的科目・PBL系科目」

地域PBL演習 (Lev.3) カテゴリー(授業題目)

- ・ プロジェクト演習Ⅲ・Ⅳ
- ・ 地域課題の発見・解決プログラムⅠ・Ⅱ
- ・ 自治体政策立案ゼミⅠ・Ⅱ

現代社会学科 社会調査演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (Lev.3)

法律経済学科 法学応用講義・法学アドバンスト講義 (Lev.3)

人間文化学科 文化遺産実践演習Ⅰ (Lev.2)・Ⅱ (Lev.3) 10

多様性～専門性へのグラデーション

専門性 ↑

多様性 ↓

7 自治体政策立案ゼミ (Lev.3)
法学応用講義、法学アドバンスト講義 (Lev.3)

6

5 ゼミ関連PBL (Lev.3・準備中)

4 文化遺産実践演習Ⅱ (Lev.3)

3 社会調査演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (Lev.3)

2 文化遺産実践演習Ⅰ (Lev.2)

1 地域課題の発見・解決プログラム (Lev.3)
プロジェクト演習 (Lev.2) プロジェクト演習 (Lev.3)

1～7は専門性の必要度に対する段階のイメージ
令和元年度は初年度。実施しながら改善を図る

11

例: 人間文化学科歴史・考古学メジャーの 文化遺産実践演習Ⅰ・Ⅱ

2019.10.19(土)・20(日)
10:00～15:00 | 費16500円まで

指定文化財 集中曝涼

Lev.2

文化遺産実践演習Ⅱ
「成果報告」企画展

菅政友の刀剣研究
一七支刀との出会い

12/10(火)～12/26(木)
茨城大学図書館
本館1階展示室
平日9:00～17:00
土日11:00～17:00

12/11.18.25(水)の昼休み
(12:00～12:30)
学生が展示解説します!

Lev.3

12

メジャー・サブメジャー制と「実践的科目・PBL系科目」

田中 裕（人文社会科学部教務委員長）

1 人文社会科学部のメジャー・サブメジャー制

- ・体系的な専門的知識と、複眼的視野または実践的能力を、必ず身に付けるカリキュラム
- ・科目ナンバリング対応の積上型カリキュラムにより戦略的にディプロマポリシーを達成

2 人文社会科学部地域志向教育プログラム

- ・カリキュラムポリシーに位置づけられた学部の中核的サブメジャープログラム
 - ・全学開講科目群と人文社会科学部独自の科目群（地域志向科目＋地域PBL科目）
 - ・地域志向科目（学科専門科目からなる：メジャーに置かれた学科の専門科目）
地域の持続的発展を考える内容の科目や地域を題材としている専門科目群
 - ・地域PBL科目（学部共通科目からなる：誰でも履修できる共通の専門科目）
 - ・インターンシップA・B（2年生以上向け）：Problem Based Learning
 - ・プロジェクト演習I・II（2年生以上向け）：Project Based Learning
 - ・地域PBL演習I・II（3年生以上向け）：Project Based Learning→プログラム必修
- ※これらはサブメジャーに拘わらず履修可能

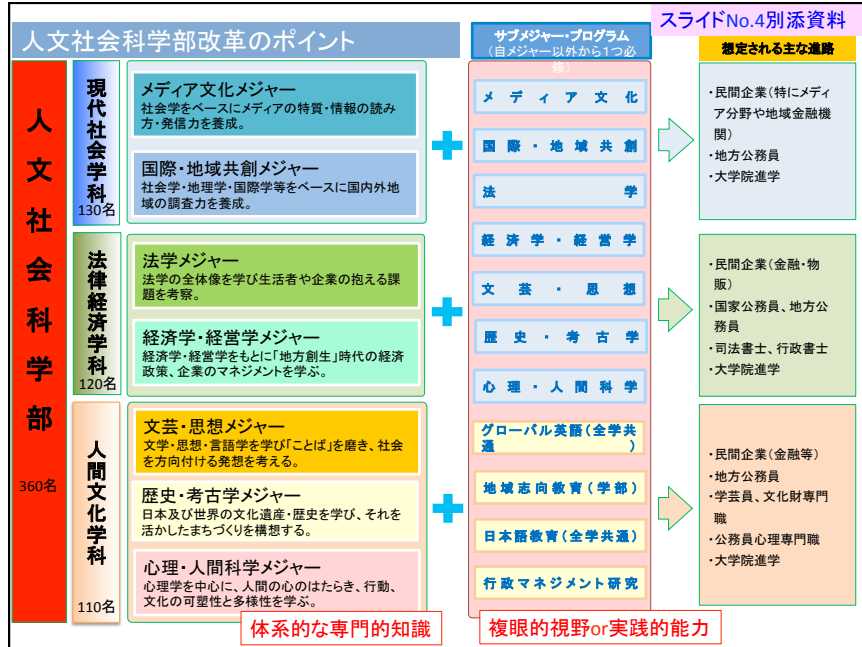
3 地域PBL演習の構造

下記3カテゴリから選択履修

- ・カテゴリ1「自治体政策立案ゼミI・II」（より専門性をもった自主的活動での学修）
- ・カテゴリ2「地域課題の発見・解決プログラムI・II」（専門性と多様性の中間的学修）
- ・カテゴリ3「プロジェクト演習III・IV」（より多様性をもった自主的活動での学修）

4 人文社会科学部の「実践的科目・PBL系科目」

- ・学部カリキュラムポリシーに掲げる「実践的科目・PBL系科目」
専門性を地域に活かし課題解決に活かす力を磨くことにより、ディプロマポリシーを達成する
- ・メジャーに置かれた「実践的科目・PBL系科目」例
 - ・社会調査演習I～IV（レベル3）現代社会学科：国際・地域共創メジャー
 - ・法学応用講義・法学アドバンスト講義（レベル3）法律経済学科：法学メジャー
 - ・文化遺産実践演習I（レベル2）・II（レベル3）人間文化学科：歴史・考古学メジャー



スライド No. 6 別添資料

人文社会科学部 ディプロマポリシー

①(世界の俯瞰的理解)

- ・人間が生み出した多様な文化とその価値について深く認識するとともに、自然環境、国際社会に対する幅広い知識と俯瞰的な理解力を有している。
- ・地域がグローバルな動きと繋がっているという認識を持っている。

②(専門分野の学力)

- ・人文科学・社会科学の学問的な方法、ものの見方・考え方、知見を身に付けている。
- ・学問分野に応じた専門的な調査・分析・企画力を身に付けている。

③(課題解決能力・コミュニケーション力)

- ・問題を認識し課題を解決するために、多様な情報を主体的に収集・分析・活用し、文章・口頭で的確に説明できる。
- ・問題を認識し課題を解決するために、文化、社会、人間を多角的に捉えて考察できる。
- ・問題を認識し課題を解決するために、目標に向かって多様な人々と積極的にコミュニケーションをはかる能力を備えている。

④(社会人としての姿勢)

- ・職業人や市民としての社会的責任と役割に関する自覚に基づいて、生涯にわたり自ら学び続ける積極性を備えている。

⑤(地域活性化志向)

- ・職業人や市民として地域の課題を見だし、地域の持続的発展に主体的に携わる意欲と能力を有している。

人文社会科学部 カリキュラムポリシー

①教育課程の編成・専門分野の学力育成

②課題解決能力・コミュニケーション能力の育成

- ・(中略)多様な人々とコミュニケーションをはかって課題解決に取り組む積極性を涵養するため、上記のゼミナール形式科目を置くとともに、メジャーの特色に沿った**実践的科目**、**PBL系科目**を置く。(中略：サブメジャーの記載)

③実践的英語力・国際化志向

④地域志向

- ・地域についての認識を深め、地域の持続的発展に携わる意欲と能力を養成するため、学科・メジャー毎に学問分野の特色をいかした、地域をフィールドとする**実践的科目**、**PBL系科目**を配置する。(中略)
- ・学生の目的意識に応じて、より実践的に地域で活躍できる能力を養成するため、次のサブメジャー専用プログラムを置く。「**人文社会科学部地域志向教育プログラム**」(16単位)：地域課題の解決能力を養成する

⑤社会人としての姿勢

- ・(中略)キャリアを考える学部共通科目として「**インターンシップ**」「**社会人入門**」を置く。(中略)

⑥教育の質の向上

プロジェクト演習活動報告会「2種類のPBL・その先の学びへ」（発言要旨）

2019.12.21 佐川

1. 旧カリキュラム（昨年度まで）での3年次ゼミPBL活動
 - ・「座学＋卒研を念頭に置いた個人の研究」と時間外のPBL（Project Based かつ Problem based ＋グループワーク、単位なし）を3年後期を3年後期のゼミ活動の柱に。
 - ・近年は大洗町議会からの要請に基づき研究、政策提言
 - ・観光、モビリティ、駅前活性化などがテーマに。
 - ・一年完結でテーマに継承性はない。

2. 現行カリキュラム（今年度3年生より）でのゼミPBL活動の位置づけ
 - ・学部地域志向教育プログラム中「地域PBL演習」として位置づけ
「専門性追求型」カテゴリー1「自治体政策立案ゼミ」
（それぞれのゼミをベースに佐川担当分と馬渡担当分があり）
 - ・全学的なiOP（internship off-campus program）の開始

3. 専門性追求とは
 - ・自治体行政や民間アクターが、これまで実施してきた取組（努力）を把握し、問題点を探る。
→その地域・現場が抱えている課題、取組が必ずしも奏功しない要因の検討。
→一般的に報道されている以上の、根幹にある要因の把握。
 - ・他所の事例をフォロー（「先進」事例は本当に先進的か）
 - ・課題を乗り越えられない制約は何か。国の法令等による規制、財政-----。
 - ・「若者らしいアイデア」だけでなく、制約をどうすれば乗り越えられるかまで考える。
 - ・政策の目的、手段、ターゲット、コスト。
こうすれば困難を乗り越えられるというロジック、ストーリーの提示。

4. 今年度の取組
 - ①履修条件「それぞれのゼミナールで学ぶ専門的な知識と技能を身につけていることが、活動の大前提となります。このため、両ゼミナール所属以外の学生が履修を希望する場合は、予め行政学あるいは政治学の授業の履修状況などについて確認する面談を行った上で履修の可否を判断します」。→結果的に、今年度の履修者はゼミ生のみ。
 - ②昨年度に引き続き、大洗町をフィールドとして「政策提言」を行う。
 - ③総合計画、地方創生の「人口ビジョン」「総合戦略」、都市計画や観光計画等の基本的行政文書の内容を把握。
 - ④大洗町のイメージ等ブレインストーミング。
 - ⑤議会議長によるレクチャー、懇談
 - ⑥大まかなテーマの決定
 - ⑦テーマに関する先行研究＋他所での事例を把握
 - ⑧ヒアリング（必要に応じて複数回）
 - ⑨提案準備→現在進行中
 - ⑩1月下旬に議員向けにプレゼン予定
 - ⑪振り返り

（裏面へつづく）

5. 今後の展開

- ・「専門追求型」かつゼミベースの授業拡大の可能性。
- ・持続的にプログラムを開講するためにFDの必要性。

**プロジェクト演習と
2種類のPBL**

鈴木 敦 atsushi.suzuki.
8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

PBL授業の根幹

言うまでもなく

学生の自発的取組

2

2種類のPBL
1: 専門性追求型

いくなれば「**精製型**」

単一大学 → 単一学部
→ 単一学科 → 単一ゼミ

3

2種類のPBL
2: 多様性追求型

いくなれば「**化学反応型**」

複数ゼミ → 複数学科
→ 複数学部 → 複数大学

4

多様性～専門性へのグラデーション
(田中教務委員長のスライドより転載)

専門性

7

6

5

4

3

2

1

多様性

自治体政策立案ゼミ (Lev.3)

法学応用講義、法学アドバンスト講義 (Lev.3)

ゼミ関連PBL (Lev.3・準備中)

文化遺産実践演習 II (Lev.3)

社会調査演習 I・II・III・IV (Lev.3)

文化遺産実践演習 I (Lev.2)

地域課題の発見・解決プログラム (Lev.3)

プロジェクト演習 (Lev.2) プロジェクト演習 (Lev.3)

□ 囲み: 地域PBL演習 (Lev.3)

1～7は専門性の必要度に対する段階のイメージ 5

「その先」の選択基準は？

履修者
各人の
目的

←

マッチングが
決め手!

→

個々の
授業の
設計

どういう環境で 何を学んで
どういう力をつけたいの？

6

プロジェクト演習の設計は 多様性追求＝化学反応型

ゼミ、学科、学部は勿論
大学さえ異なる多様な学生が
集まって、チームを結成

7

「化学反応」って？

様々な背景を持つメンバー



異なる知識・技能・発想等々を
「持ち寄り」「ぶつけ合い」...



多様なメンバーなればこそその学び

8

身につけるのは？ 社会人基礎力

お手元の資料をご覧ください

単なる就職試験対応能力ではない

社会に出てからも
持続的に活躍
してゆける能力



9

ここで再度「選択基準」は？

選択の
決め手

履修目的と授業設計の
マッチング

PBLの
根幹

学生の自発的取組

その
先には

10

プロジェクト演習 授業設計を 超えた 活用事例

2018年度さとみ・あい
田島彩花さんの卒論作成

お手元の資料を
ご覧ください

究極のPBL＝自発的取組は

授業設計者の意図を
超えた、授業の独自活用



11

ご清聴ありがとう ございました

鈴木 敦 atsushi.suzuki.
8115@vc.ibaraki.ac.jp

12

構成要素		4	3	2	1	
1 基礎的素養	読み	文章読解能力 論理的思考力 分析力	難解で長大な文章でも、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を論理的に理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、ほぼ最後まで読み通し、筆者の主張をある程度までなら理解・分析することができる	比較的平易で短い文章であっても、最後まで読み通すことができない。たとえ読み通せても、筆者の主張を理解・分析することができない
	書き	文章作成能力 論理的思考力 分析力	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をルールを踏まえて提示しつつ、4,000字以上の論旨が明確な文章にまとめることができる	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料がある程度ルールを踏まえて提示できる。4,000字以上の文章を書いた経験は無い	特定のテーマについて、短い文章を書くことができる。論理的な思考・分析や、必要な資料をルールを踏まえて提示することには難がある	「つぶやき」的に短い文章を書くことはできるが、論理的な思考や分析を提示することはできない
	ソロバン	基本的なIT能力	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、初心者に分かりやすく説明することができる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、基本的にマニュアル無しで自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、マニュアルを参照しながら自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、自力では対応できない
	話す	説明能力 プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力	公の場で、相手の理解度や受け止め方を読み取りながら、説得力のある説明・魅力的なプレゼンができる。質問や批判をコミュニケーションの機会と受け止めることができる	公の場で、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションに難があり、質問や批判には思わず身構える	フランクな場では、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションもとれ、質問にも平常心で答えられる	親しい人たちとの気楽な会話・コミュニケーションはできるが、第三者への論理的な説明やプレゼンはできない
2 社会生活力	生活力	自立した生活を実践できる力	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが安定したペースで送ることができる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができる	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが乱れがちである。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせない(うっかり忘れる)ことがある	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースがしばしば乱れる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせないことが多い	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが安定したペースで送ることができない。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができない
	人間関係構築力	生活を送る上で必要な、人間関係を円滑にするための力	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、常々確実に遵守できる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、時に違えることがある	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、しばしば遵守できない	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、遵守できない
	情報収集力	生活を送る上で必要な情報のありかや、入手方法を把握する力	書籍を含む各種メディアや人脈等を広汎かつ有効に活用して、情報の入手方法を的確に把握し、必要な情報を確実に入手できる	情報のありかも情報を入力するための新たなルートの開拓方法も把握している。しかし各種メディアの活用や人脈等が不十分で確実性に難がある	生活を送る上で必要な情報のありかはある程度把握している。しかし情報を入力するための新たなルートを開拓する方法は分からない	生活を送る上で必要な情報のありかが分からない。どうすれば情報を入力できるかも分からない
3 行動力	主体性	物事に進んで取り組む力	物事を自分の問題として受け止め、指示や命令・切迫した必要などが無くても、自らの定見・計画に基づき、主体的に判断して取り組むことができる	明確な義務を伴う事案については、責任感から率先して取り組むことができる	自らの利害や、興味関心が強い事柄については、自主的に取り組むことができる	指示や命令・切迫した必要があっても、できるだけ他人の後に付いていくことを考え、積極的に取り組むことができない
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	立場の異なる人や初対面の人にも、課題について説得力のある説明をし、協力を促すことができる。また、自分の意見に固執せず全体を纏めることができる	学生同士など、立場の近い人に対しては、さほど親しくなくとも課題を分かりやすく説明し、協力を促すことができる。また他のメンバーへの気配りもできる	親しい友人に対しては、課題について説明し、協力を促すことができる	第三者に対して課題を説明し、協力を促すことができない。或いは、協力は促せるが発言の独り占め・攻撃的言動等で協力者の意欲を阻害させがちである
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	明確な目的を設定し、自分の能力や客観的な諸条件を的確に踏まえた計画を立て、迅速かつ粘り強く行動していくことができる	目的を設定し迅速に行動していくことができるが、計画性に難があり、迷走することもある	目的を設定し、行動して行くことができるが、迅速さや粘り強さに難があり、所期の目的を達成できないこともままある	目的を設定できない。あるいは設定してもその達成に向けて確実に行動することができない
	対応力	物事に流されず疑問に思い主体的に対応する力	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、客観性や自らの定見に照らして疑問がある事柄には、関係情報を検討・確認した上で主体的に対応する	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、自分の意見に合わないものであれば反対の意思表示をすることができる	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見に疑問を感じることもあるが、敢えて主張することはしない	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見には、疑問を抱かず従ってしまいがちである
4 思考力	課題発見能力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握し、明確に言語化して第三者にも提示できる	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握できるが、明確に言語化することができない	現状を分析し、背景や原因を追及することはできるが、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握することができない	現状を、漠然とした諸事象の集合としてしか認識できず、分析や課題発見ができない
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	解決の為のプロセス案を複数用意でき、最善の物を選んで解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、チーム活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、個人活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの道筋を構想できる	解決の為のプロセスを立案することができない。或いは、立案はできるが解決までの道筋を構想できない
	想像力	課題が抱える影響課題解決方法の影響等、ものごとをイメージする力	課題自体や解決に向けた取り組みがもたらす影響といった「目に見えない物」について明確なイメージを持ち、その得失を念頭に的確な対応ができる	「目に見えない物」をイメージでき、その得失を念頭に対応を考えるが、イメージの多様性と明確さに難があり、的確な対応策を描けない	「目に見えない物」をイメージし、その得失を念頭に対応を考える必要性は認識しているが、明確なイメージを描けない	課題自体や解決に向けた取り組みの影響といった「目に見えない物」についてイメージすることができない。またイメージする必要性を自覚しない
	課題解決能力	課題の本質を捉え、適切な解決に導く力	課題の本質を捉え、解決のための勘所を明確にした上で、具体的な取り組みに必要な条件を整えて確実に解決に導くことができる	課題の本質を捉えることができ、解決のための勘所を明確にできるが、具体的な取り組みに必要な諸条件の整備に難があり、失敗も多い	情報を客観的に分析して課題の本質を捉えることができるが、解決のための勘所を捉えることができず、適切な解決に導くことができない	周辺情報や個人的利害・感情等に囚われて、課題の本質を捉えることができず、課題解決に取り組めない
5 チームワーキング能力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分の意見を、相手の立場や前提となる知識・文化的背景の違い等も視野に入れて整理し、分かりやすく説得力のある内容・話法で伝えることができる	自分の意見を論理的に整理し、知識・文化の共有が乏しい相手に対しても、明確な内容・話法で伝えることができる	自分の意見を、家族や友人等、基盤となる知識・文化を共有する相手に対しては、その共通性に依拠しつつ分かりやすい内容・話法で伝えることができる	自分の意見を整理し、分かりやすい内容・話法で伝えることができない
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	話者が話しやすい環境を作り、適切なタイミング・内容の質問等で話者の意図を更に引き出しつつ、最後まで集中力を切らさずに聴くことができる	話者が話しやすい環境を作り、最後まで集中力を持って聴くことで、話の筋を正確に把握できる	一見最後まできちんと聴いているが、集中力が続かず、話の筋を正確に把握できない	目を逸らしたり話の腰を折ったりして、話者にとって話しにくい条件を作ったり、注意力を切らして最後まできちんと聴くことができない
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	相手の意見・立場になって考え、「違う」ことを前提に、相手を理解することができる。自分の意見に固執せずアドバイスを進んで受け入れられる	自分と異なる意見・立場があることを認識でき、アドバイスも素直に受け入れることができる	自分と異なる意見・立場への違和感が強く、アドバイスを受け入れることにも抵抗感が強い	自分と異なる意見・立場が存在することを許容できない。アドバイスを攻撃と受け止め、受け入れることができない
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	組織における自分の責務を正確に認識し、自分の意思や言動が相手にどう影響するかを考慮しつつ、組織全体を視野に臨機応変な対応ができる	組織における自分の責務を正確に認識し、組織全体を視野に入れて行動しているが、相手への影響を気にしすぎて臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識はあるが、自分の意思や言動が相手にどう影響するかという意識に乏しく、臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識が無く、物事を自分中心にしか考えられないため、臨機応変な対応ができない
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	法令や規則は勿論、チーム内での取り決め等についても、決められたことは本意でも遵守する。高い倫理観を持ち、自ら公平公正に努める	法令・規則・チーム内の取り決め等、明確に決められたことには従うが、公平公正等、本人の倫理観に拠る事柄への意識は高いとは言えない	罰則を伴う法令や規則等は遵守するが、チーム内の取り決め等は軽視する。公平公正への意識が低く、往々にして我田引水に陥る	時間厳守等、社会常識レベルの取り決めも遵守できない。公平公正への意識が低く、しばしば我田引水に陥る
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスを感じても成長の機会と前向きに捉え、平常心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。また、気晴らしの方法を持っている	ストレスを感じても平常心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。しかし前向きに捉えたり気晴らしをすることはできず、不満を蓄積させる	ストレスを感じても投げ出さず、概ね適切に判断し課題を遂行できる。しかし気晴らしの方法もなく、終始イライラして攻撃的になる	ストレスを感じると、適切な判断や課題遂行ができなくなる。気晴らしの方法もないため、終始イライラして攻撃的になる

20181117 プロジェクト演習FB記事

<https://www.facebook.com/IUChikipg/>

番外編：プロジェクト演習と専門研究

PBL授業には、専門性追求志向のいわば「精製型」と多様性追求志向のいわば「化学反応型」の二種類があります（図1～2）。

プロジェクト演習は、「社会人基礎力」の育成を目的に「化学反応型」のPBL授業として設計されました。このため学科学部、時には大学高校の枠も越えて様々なバックグラウンドを持つ学生、生徒と一緒に一つのプロジェクトに取り組んで来ました（図3）。

ではプロジェクト演習は専門性とは無縁かと言えば、そうではありません。プロジェクトの遂行に当たって自らの専門性を活かす場面は、その気になればいくらかでもあります。さらに、プロジェクトへの取組を通じて問題意識を深め、最終的に卒業論文の題材につなげていく学生もいます。

つまり「化学反応型」で設計されたプロジェクト演習ではありますが、自らの問題意識次第で「専門性追求の場」として活かすこともできるということです。一例として、昨年度のさとみ・あいチームのリーダーで現在卒業論文を執筆中の田島さんへのインタビューをアップします。

鈴木（以下「S」）：田島さんの専攻や卒業論文と、プロジェクト演習とのかかわりについて、簡単に教えて下さい。

田島（以下「T」）：私は民俗学を専攻しています。さとみ・あいチームの一員として3年間常陸太田市里美地区で活動して来て、一般的な大学生に比してかなり濃密なつながりを持つことができました。このつながりを活かして「地に足の着いた」卒業研究をしたいと考えました。最近、かかしはあまり作られなくなっていますが、里美地区では毎年秋に「かかし祭」が開催され、地域の様々なグループ単位で多様なかかしを製作して出展しています。その結果里美地区では、「かかし作りの技術」と「作る人たちのつながり」が十分生きているんですね。そこで、かかしをテーマに卒業研究を進めようと思いました。

S：卒論の概要を教えてください。

T：「民俗学の分野においても従来あまり研究対象となつてこなかったかかしを、「つくり物研究」のテーマとして位置づけ、資料化できないという理由から語られてこなかった「審美性」について、かかし製作の過程から調査をする」ということになるのでしょうか。

S：「つくりもの」とは？

T：「特定の場で飾られる人工的な造形物」と定義されていますが、これまでの研究では、祭礼道具や民俗芸能について研究されることが多く、かかしに注目した研究はほとんどありませんでした。現在の里美地区においては、かかしを祭への出品を前提として鑑賞品、芸術品の1種として製作していることに注目し、地域の中でかかしに対する審美の基準がどのようなものなのか、という観点で研究を行っています。

S：具体的にはどのように研究を進めているのですか？

T：「美しい里づくり委員会」様と「円縁会」様のかかし作り作業を参与観察させて戴いています。里美地区でのかかし作りは個人から団体まで様々なレベルで行われていますが、団体を調査対象とすることで、団体内での会話や行動から審美性が読み取れるのではないかと考えたためです。またこの二団体は、毎年グランプリや準グランプリを受賞してきた「腕利き集団」であることも、参与観察をお願いした大きな理由です。

S：「サンヨカンサツ」とは？

T : あ、すみません。「外から観察をするだけではなく、自らが活動に参加しながら調査をする手法」です。
 S : 田島さんが参与観察中の写真を図 4 に示します。田島さんも作成に参加した「阡縁会」さんの「チョコちゃんに叱られる」かかし(図 5)は準グランプリ、同じく「美しい里づくり委員会」さんの「大変ご迷惑をおかけしております」(図 6)はグランプリと、上位独占だったとか。
 T : はい、さすがは腕利き集団。「技術」という点でも「審美性」という点でもとても勉強になりました。
 S : ありがとうございました。卒論完成まであと一息ですね。頑張ってください！

2種類のPBL
(1)精製型
専門性追求型のPJ
 単一大学 → 単一学部
 → 単一学科 → 単一ゼミ

(1)精製型 PBLと履修母体の方向性

2種類のPBL
(2)化学反応型
多様性追求型のPJ
 複数ゼミ → 複数学科
 → 複数学部 → 複数大学

(2)化学反応型 PBLと履修母体の方向性

プロジェクト演習の設計は
化学反応型
 茨城大学＋常磐大学
 ＋茨城キリスト教大学
 ＋水戸農業高等学校

(3)プロジェクト演習の設計方針と連携する
 高校・大学



(4)只今、参与観察作業中



(5)第 31回 里美かかし祭 準グランプリ
 阡縁会「チョコちゃんに叱られる」かかし



(6)第 31回 里美かかし祭 グランプリ
 美しい里づくり委員会「大変ご迷惑をおかけしております」かかし